

会 議 録

会 議 名	平成30年度第2回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	平成30年10月29日（月）午後2時から3時		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 牛米委員 大熊委員 中嶋委員 日高委員 井上委員 林委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	関生涯学習課長 山崎文化財係長 高木主事（学芸員）鈴木（市史 編さん担当）非常勤嘱託職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	1名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 「通史編」及び「資料編」の報告について</p> <p style="margin-left: 2em;">ア 編集委員会議</p> <p style="margin-left: 2em;">イ 各部会の活動</p> <p style="margin-left: 2em;">ウ 市史編集状況</p> <p>(2) その他の事業について</p> <p style="margin-left: 2em;">ア 「市史編さん資料第58編 梶野家文書(3)」</p> <p style="margin-left: 2em;">イ 古文書調書委託</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 平成31年度小金井市史刊行記念講演会</p> <p>(2) 市史編さん事業の継続について</p> <p>3 その他</p> <p style="margin-left: 2em;">東京文化財ウィークについて</p> <p>4 次回の会議日程</p> <p style="margin-left: 2em;">平成31年2月4日（月）午後2時～</p> <p style="margin-left: 2em;">於：市役所第二庁舎8階801会議室</p> <p>5 配付資料</p> <p>(1) 市主催事業チラシ</p> <p>(2) 国名勝小金井（サクラ）パンフレット</p>		

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">(3) 市制施行 60 周年記念事業「クリアファイル」チラシ(4) 市制施行 60 周年記念・明治 150 年事業
「明治時代の古地図企画展示」チラシ(5) 市制施行 60 周年記念事業
提案型市民協働事業「昭和の小金井写真展」パンフ(6) 東京府開設 150 年記念事業クリアファイル、パンフ、絵葉書(7) 東京文化財ウィークガイドブック特別公開編・通年公開編(8) 月刊こうみんかん 10、11 月号 |
|--|---|

会 議 結 果

関生涯学習課長

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

市史の刊行につきましては、60周年記念事業の目玉の事業の1つでございまして、いよいよ大詰めを迎えているところでございます。本日は、これまでの経過及び今後の見込みを踏まえて、お話ししていただければ、その議題が中心になるかなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、委員会終了後には、編集委員会議を行いたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、議題に先立ちまして、本日の配付物の確認をさせていただきますと思ひます。

山崎文化財係長

本日は配布物が多数ございます。まず小金井市のものといたしまして、秋の文化財ウィークの時期、本市で行います秋のイベントのチラシです。そして今年度改訂版を発行いたしました国の名勝小金井(サクラ)のパンフレット。こちらは小金井桜復活事業の概要を市民に周知する目的と共に、名勝小金井(サクラ)周辺を散策しながら理解を深めていただけるように、名勝小金井(サクラ)の解説と地図も掲載されたパンフレットになります。こちらは無償で頒布します。

次に、市制60周年記念事業といたしまして、名勝小金井(サクラ)にちなんだ絵図を用いたクリアファイルを小金井市で作成いたしました。そのチラシです。4種類各500部作成いたしましたので、1部250円で販売しておりますので、ご利用になっていただければと思ひます。

また、市制施行60周年記念事業と共に明治150年事業の冠もあわせて、ついております企画展「小金井の絵図」は、明治時代の古地図を修復いたしましたので、展示で取り扱っております。裏面には、2月2日(土)に、これも明治150周年事業冠事業でございます講演会のご案内を載せさせていただきます。

また、提案型市民協働事業。今年度、生涯学習課がかかわっております、宮地楽器ホール1階にて10月20日から24日まで「昭和の小金井写真展」を開催いたしました。その際に無償で配布しておりましたパンフレットを参考にお配りしております。

次に東京都からの配付物です。明治、東京府150周年記念事業として作成されたクリアファイルと、パンフレット、絵はがきが入っております。ご覧になっていただければと思ひます。

それと、毎年行われています文化財ウィークのガイドブック。通年編と特別公開編、2冊になります。

最後に、本市の生涯学習部内の公民館の刊行物で、月刊こうみんかんになります。以上です。

関生涯学習課長

よろしいでしょうか。今回、この委員会での資料というよりも、宣伝を兼ねさせて、かなり多数ご用意させていただきました。今年度は、市制施行60周年記念と共に東京都でも明治150年記念ということで、様々な事業を企画しております。あわせて皆様に情報提供という形でお

配りさせていただきましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、この後の委員会の議事進行につきましては、根岸委員長に
お願ひしたいと思いますので、委員長、よろしくお願ひいたします。

根岸委員長 お願ひします。

それでは、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。
もう市史の通史、来年の2月には発行しなければいけないという大きな課題が迫っておりまして、編集委員の先生方、非常に大変なご苦勞をしていただいておりますし、あわせて、事務局の方々も編集作業で大分大変な思いされているかと思ひます。皆さんで協力し合ひまして、いい市史をつくりながら、小金井の歴史や文化をさらに発信していくというような形で、この事業を遂行させていただきたいと思ひますので、ぜひご協力よろしくお願ひします。

1 報告事項

(1) 「通史編」及び「資料編」の報告について

ア 編集委員会議

根岸委員長 それでは、議題に移りまして、まず1の報告、「通史」及び「資料編」の報告について。最初に事務局のほうから、アをお願ひできればと思ひます。

高木主事(学芸員) まず私から、ア 編集委員会議についてご報告いたします。編集委員会議については、まず5月14日、7月9日、8月20日に別途それぞれ必要に応じて編集に関する協議を行ってまいりました。その中では、主に編集方針についてご協議いただきまして、また、刊行スケジュールの確認、そして、実際には原稿内容の確認等も行っていました。

特に、時代をまたがる記述に関しては、編集委員の各委員の議論の中で、そういう原稿については調整をいただいておりますので、体裁については、編集委員会議の場において整えております。

また、重要なことで、会議の中では1点報告があります。当初通史編の中で計画をしておりました付表である年表について提案いただきまして、今回の通史編では掲載をしないということで、編集委員会議の場では、その場で了承をいただいているところです。

簡単ですが、以上が編集委員会議の経過と報告となります。

根岸委員長 ありがとうございます。

編集委員会議、数回編集委員が集まりながら、体裁、内容などにつき会議を重ねました。その中で、今も報告にありましたように、通史の最後に年表をつけることが、ここの編さん委員会でも了承されていましたが、年表は、前の『小金井誌史』のときに年表編が1冊出ています。それにつけ加えるような形で急いで年表を作成しても十分な形にはならないと思われまふ。さらに通史編の執筆と校正に追われ、時間的余裕の無い状況で、並行して年表作成を急ぎ、誤植でもあれば後世まで残ります。かえって瑕疵をつくってしまう恐れがあります。今

回は無理してまで作成せず、きちんとした年表を改めて作成したほうがよいという話になりました。年表を通史編に載せるという以前の編さん委員会における承認を撤回して、年表は今後考えることにしたいと思っております。

これについて、報告ですので、議題ではないのですが、ここです承いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員 (承認)

根岸委員長 ありがとうございます。

何かご意見ございますか。これについては、よろしいでしょうか。

イ 各部会の活動

根岸委員長 次に、各部会の活動に入ります。活動といいましても、各部会が原稿の校正と入稿までの作業を行っているところですので、ごく簡単に経過をお話しただければと思います。

順番としましては、近世、近代、現代で、考古が一番大変なところですので、考古を最後をお願いできればと思います。

まず、近世ですが、原稿が一応揃ったというところではあります。

実は、個人的な話をして申しわけないのですが、執筆の調査員の中に入退院を繰り返している者が1人おりまして、その方の分が十分にでき上がっておりません。そんな訳で、現在私がそれを引き取って、手直しをしているところです。

それから、一部を事務局の鈴木さんをお願いして手直ししています。提出してもらった原稿を手直ししながら原稿の整備をしているというような状況です。

近世については、以上のような理由で遅れているところではありますが、今月の半ばまでには何とかできそうです。

それでは、近代部会のご報告をお願いします。

牛米委員 近代は、一応皆さんに原稿を出していただきまして、調整等をしておりました。9月23日に部会を開催いたしまして、最終的な調整を行いました。実はその後事務局のほうには、大変ご迷惑をおかけしたのですが、分量をオーバーしたために、削ってほしいと言われてまして、その辺も調整をして、何とかこの形にこぎつけたというところがございます。以上です。

根岸委員長 続いて、現代部会について、中嶋先生、お願いします。

中嶋委員 現代につきましては、原稿は6月末から7月の初めぐらいに一応提出いたしまして、その後調整作業に入っています。月1回部会を開いて調整したのですが、9月23日に最終調整を行いまして、一応原稿は出しております。細かく言えば、第1章部分はいろいろと問題があったので、構成から全て書き直しました。

現時点では、まだ振り仮名、写真指定だとか参考文献。それについて間に合っていない部分が残っているらしく、個々に調整しています。以上です。

根岸委員長

ありがとうございます。

それでは、考古、日高先生、お願いします。

日高委員

考古部会につきましては、資料編と通史編を両方今年度刊行ということで、非常に大変な状況になっています。資料編につきましては、今のところ入稿済み。それで校正が上がってきているものとして、5章から7章。それから考古編と、あと中世編という形になりましたので、中世のほうの1、2章というのが入稿済みで、校正も出てきているというような状況に、今あります。

入稿前として、考古のほう、第2章の研究史のところと、あと4章の縄文のところについても、原稿が上がってきた状況がありますので、今事務局のほうで調整をして、図版等の組みをしていただいているところで、用意ができ次第入稿していくという状況にあります。

それから、中世のほうの第3章としては、板碑の図面がまだ入稿前としてあります。

それと、写真。今回、考古編では、昨年度に委託事業として写真撮影をしておりますので、縄文土器ですとか、それ以外のものもありますが、高精細の写真を撮っています。それを全て資料編のほうでは使えませんので、それをDVDにしてつけることになっておまして、そのDVDのデータ自体も入稿する前という状況にあります。

未提出のものについては、旧石器と自然環境についての原稿。それから、中世のほうで板碑の3Dの写真の撮影というか、3Dの図面を作成しているものですから、その部分については、まだ未提出の状況にあるということになります。

入稿済みのものについては、初稿が上がってきて、それを戻したりという状況にありますので、鋭意入稿前のものが整理でき次第、どんどん入稿していきながら校正を進めていくと。未提出のものについては、何とか提出していただくように事務局のほうからもプッシュしていただいているという状況にあります。

ただ、状況としては、かなり遅れているところがあり、校正の回数を減らすとか、あるいは校正の期間を短くするというようなことも考えてやっていかなければいけない状況です。その点については相談しながら、間違いがあってははいけませんので、何とか校正の回数もできるだけ確保しながら進めていこうと考えております。

通史のほうについては、現在縄文時代のところが提出をしていただいております。ただ、分量がかなり多い状態にありますので、調整が必要なところ です。

それ以外の原稿については、私の原稿もそうなのですが、まだ未提出でして、一応10月末が提出期限ということなので、私も鋭意進めておまして、今日もここに来る直前まで原稿を書いています、まだでき上がっていないという状況です。

何とか、できるだけ早くに原稿を上げて、通史編についても、でき上がったところから先に入稿していくというような状況にしていけない

といけないと思っております。今現在の状況としては、そのようなところでは、

根岸委員長 ありがとうございます。なかなか大変なところでご苦労おかけしておりますけれども、よろしくお願ひします。

林委員 各部会については、以上ですが、何かご意見、ご質問ございますか。特に考古部会のほうでは、本当に通史編と資料編と重なっているのので、大変かなというふうに思うのですが、それぞれが、大体出版物として完成するのは、いつごろの予定ですか。

根岸委員長 事務局のほうから願ひします。

高木主事(学芸員) 事務局です。まず、資料編につきましては、一応予定として、年内の少しでも早い刊行を目指したいと思っております。

通史編につきましては、年度内ということはもちろんですが、3月刊行を考えているところでございます。大変タイトなところではあるのですが、市制60周年記念ということで、今皆様へご協力いただいているところでございます。

林委員 なかなか大変ですね。

根岸委員長 今、日高委員からお話がありましたように、ほかの部会でも、場合によっては校正の回数を減らすなどしなければいけないので、なおさら、入稿前の原稿の調整が大変になっていると思います。

林委員 論点や何かの関係で、かえって、いろいろ急いだためにミスが起こることも考えられますね。

根岸委員長 そうですね。

林委員 そういうことのないようにしたほうが良いように思います。

根岸委員長 ありがとうございます。

大変心強いお話をいただいたかと思ひます。本当に間違いのないように何とかいたしたいと、編集委員一同思っております。

ほかはいかがでしょうか。願ひします。

大熊委員 僕も原稿を読ませていただきました。小金井市には、僕は二十年前から五年間指導主事として在籍しておりました。少しは小金井市のことを知っているつもりでおりましたが、今回読ませていただいて、改めて勉強になりました。その点について少しだけお話しさせていただきます。

今回読ませていただいて、改めて小金井市の様子、議会の運営のあり方、例えば、議員24人が12会派という少人数からなる会派で構成されている理由を理解する上でも、参考になりました。

それだけではなく、小金井市の住民の方々は、進んで、子ども達のために様々なことをしていただきます。これに関しては、他市とは比較にならないくらい充実しているのです。余談になりますけれども、9月から今日まで土日はほとんど市内の行事に出席しておりました。市民祭り、子ども祭り、イベントが盛んに行われています。住民の方々の意識がとても高いのです。

紆余曲折あったのだらうと思ひますけれども、それがどうしてでき上

がったのかがわかった気がしました。私は歴史の専門家ではないので、素人の話とっていただいて結構なのですが、進んできたベクトルをある程度理解すると、次にどちらの方向へ進むべきかの指針ができます。これを思い切り曲げるということもできないですし、進んできたベクトルの中でどこが欠点で、どこが長所なのかを学ばせていただいた気がしました。

これを私だけでなく、多くの市民の人たちがこのベクトルを理解し、そしてこれからの方向性を見きわめるといふ点では、市制60周年記念と位置づけたこの事業は、本当に有意義なものだと思います。

そういう意味でも、あの本を1冊手に入れて読むというのは図書館でもなかなか難しいことなので、やはりPDF化して、細かく分類をして、ホームページからでも検索できるような形にすることを強く望んでおります。絶対必要だと感じています。

次に、読ませていただいて分かったのですが、小学生にはちょっと難しすぎる。中学生でも、ちょっと難しいだろうと。小中学校の子どもがその一部を読んで理解することはもちろんできると思いますので、先生が資料として、読んであげてもいいと思います。小金井市内にある高校の生徒や大学生とか、その人達にとっては、郷土史を学ぶ重要な資料になると思います。

それから、市政を担う方達や議員の方等、小金井市の未来を考える立場にいる方達には、やはりこの通史をしっかりと勉強してもらって、ベクトルを体の中にしみこませていただければ、これからの方向性を考えてもらう上での大切な礎になるのではないかと思います。

先ほどから大変なご苦勞をなさっている様子が委員のご発言から伺えるのですが、それができ上がったときには、それなりの大きなエネルギーになるのではと思います。大変なところだとは思いますが、ぜひとも完成させていただいて、小金井の未来を語る人を1人でも多くつくっていったらと思います。私もたくさん宣伝していきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

根岸委員長

ありがとうございます。大変心強いお言葉をいただいたと思います。読んでいただいた原稿は現代編のところかと思いますが、中嶋さん、いかがですか。

中嶋委員

心強いお言葉をいただき、本当にありがたく思います。現代編については、戦時期から1980年代ぐらいまでを取り上げています。前半は、戦争と平和の問題、後半は、都市化に対してどのように対峙していたかという話になるかと思います。実は、90年代についても取り上げたかったのですが、資料的な問題等いろいろ考えて、1980年代までと判断し、1990年代以降は、今後の課題とさせていただいた次第です。過分なお言葉、ありがとうございました。

大熊委員

ありがとうございました。私も勉強になりました。

根岸委員長

ありがとうございました。

ほかに、ご意見、ご質問、お願いします。

井上委員 先ほど、大熊委員がおっしゃっていたとおりで、つい最近、東京下の地方自治体のジェンダー平等度の順位が出ていましたが、小金井市が3位ということで、上から勘定して3番というのはすごく高いのです。ちょうど現代のところを拝読していたので、こういうことにつながっているのだと思いました。

大熊委員 そうですね。

井上委員 そういうものをきちんと活字にまとめているということが大事なことだなと強く思いましたね。近世は全然知らないところなので、また勉強しながら読ませていただきます。

根岸委員長 またよろしくお願いします。ありがとうございます。

林委員 最近の若い人達は、昔ほど本にあまり関心がないように思います。読書の傾向も非常に貧しくなっている。そのような実感があるのですが、立派なもの、膨大なものを作って、それをいかに読んでもらうようにするか。そこは、小金井だけの問題ではなくて、社会的な問題だと思います。読んでもらう工夫がこれから必要なのかと思います。

根岸委員長 ありがとうございます。今後の活用ということも踏まえたご意見をいただきました。とりあえずはしっかりした本をつくっていかうと思っております。

大熊委員 さきほど要望いたしましたPDF化はできそうですか。

根岸委員長 はい、事務局、お願いします。

高木主事(学芸員) はい。既に市史の一部については、紙の製本とあわせてPDF化というのは進んでいるものがありますので、その辺の対応は可能かと思えます。まだできていないところに関して、今後作業内容を見て、検討できるかと思えます。

大熊委員 こんなこと言ったら怒られるかもしれませんが、市史を読んでいくときに、読み始めはなかなか進みませんでした。しかし、読み進めて、内容について理解が深まってくると、今度は、のめり込みます。通史編を有効に活用していただくための一つの手段として、関心のある部分だけでも調べることができる、見たいところだけすぐに見られる状況にさせていただくとよろしいのではないかと思います。興味関心があるところをぱっと検索できるという形にしておくと、より多くの方に読んでいただけたらと思います。PDF化をぜひとも事務局のほうで工夫していただきたいと思います。

井上委員 そのときの索引はどうなるのでしょうか。キーワード検索がありますけれども、どうなるのですか。

高木主事(学芸員) 現在のPDFの方法、使い方として、テキスト、いわゆる文字の検索ができる状態でご覧いただけます。例えば画面上で、クリックするか、もしくは範囲を選択することで、特定の場所に飛ぶような形になるかと思えます。

根岸委員長 今後、編集委員会などでも、その方向性を考えなければいけないと思いますので、その具体的な方策は編集委員の会議で少し練らせていた

だいて、それでまた次の会にそれを上程するような形でよろしいでしょうか。

大熊委員
根岸委員長

ぜひともお願いしたいと思います。

索引などにつきましても、今後編集委員会で相談させていただいてよろしいでしょうか。貴重な意見をいろいろいただきまして、大変参考になりますし、我々の力にもなります。どうもありがとうございました。

これについては、とりあえずよろしいでしょうか。ここで報告を終了します。

ウ 市史編集状況

根岸委員長
高木主事(学芸員)

次、ウの市史編集状況について、高木さんからお願いします。

これまで、各部長、編集委員の方からそれぞれご報告いただきましたので、私からは事務局から今進めている状況をご報告いたします。通史編と資料編分けてご報告いたします。

現在資料編、または通史編ですね。それぞれ別々に印刷業者とはそれぞれ契約を締結して、既に動いています。この資料編と通史編2冊を同時並行で、今現在作業を行っているところです。『資料編 考古・中世』につきましては、既にもうご報告いただきましたが、9月から入稿が始まっている状況です。

少し内容を補足しますと、『資料編 考古・中世』は、前回の小金井市誌ですね。いわば取り扱いの少なかった古代または中世、そして近世の考古の資料を取り扱っております。また、黒曜石の科学分析でしたり、3D計測を用いた調査結果を反映させるなど、小金井市の自治体史の中でも特徴を出すような形で、現在編集を行っているところです。なかなかほかの自治体史にないおもしろみを出そうかなという工夫をしています。

続いて、通史編。こちらは、原始から現代までかなり幅広い中でやっておりますが、ページ数につきましては800ページほどを見込んでおります。各部会において、ページ数の範囲内に抑えていただくように調整をいただきまして、大変編集委員の方々には苦心をいただきました。ありがとうございました。

また、明日から、まず入稿として、近代部会の近代編。こちらをまず入稿を随時進めてまいります。その後、一部原稿について提出が遅延している関係もございまして、現状全ての原稿を入稿する状況にはありません。そのため、随時今後入稿を行ってまいります。来月中には、全ての原稿を入稿したいと考えております。ご協力お願いします。

また、その他変更点といたしまして、今回本文のほかに付録という形で、皆さんのお手元に小金井の絵図というものがございまして、実はこの大きな事業の中で、修復を行いました3枚の非常に大きな村絵図がございまして。明治初期に作成されたものですが、これを早速付録という形で、取り入れたらどうかということで、急遽最新の成果をあ

わせた修復絵図を大きな図として、折り畳んだ状態で挿入することで、今編集を進めております。

私からは以上です。

関生涯学習課長

あと私から。通史編の原稿につきましては、発行前にはまず皆さんで共有という形で、事前のお目通しをお願いしているところがございます。ご確認いただきまして、さまざまなお意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

逐次、入稿していきたいと思います。その際には、また皆様にも原稿をお送りしますので、ぜひともまた現代編のように、またご意見をいただければ、幸いです。今後は、直近で言いますと、近代編をお手元にあるかと思いますが、こういった形で、年代ごと、入稿の準備ができ次第、また皆様に送らせていただき、皆様のご意見を反映した形で刊行したいと思っています。

根岸委員長

私からの注文です。もう少し字を大きくしていただけないでしょうか。多分A3をA4にして71%に縮小しているのですが、私も老眼が進んできて、だんだんこれが小さく見えるようになりました。せつかくですので、例えば80%とか、少し大きめにしたほうが読みやすい方もおられるのではないかと思いますので、この次に原稿を送るときには、考慮していただければ幸いです。

関生涯学習課長

なるべくそこは善処したいと思います。申し訳ございませんでした。

根岸委員長

今のご説明で、何かご質問、ご意見いかがでしょうか。

この絵図は、A2ぐらいになるのですか。大きさとして。

高木主事(学芸員)

はい。

根岸委員長

A2ですから、この4倍の大きさになりますかね。

高木主事(学芸員)

縦横大体2.5メートル。

根岸委員長

資料の写真にある貫井村の絵図は、この机の幅くらいの大きな絵図でして、写真をよく見ると白い欠損部分があり、虫食いの穴が開いています。私も初めて広げたときに立ち会いましたが、破損状態は大変なものでした。修復していただいて、ここまで見えるようになった。欠損した部分はありますが、明治になって初めて作られた貫井村の絵図として貴重です。地租改正頃の作成かと推定されますが、百四、五十年前の村の様子がよくわかる、大変良質な資料だと思っています。

これにつきまして、付録としてこの地図の複製を、縮小ですけども、載せるということはよろしいでしょうか。

小金井村の絵図は、かつて40年前に刊行した小金井市史の絵図編に掲載されていたのですか。

高木主事(学芸員)

地図編です。

根岸委員長

小金井村については、以前の市誌に掲載されていますが、それ以降新しく貫井村のものが発見されましたので、新しい成果がつけ加えられたということにもなるかと思います。

お認めいただいて、よろしいでしょうか。

委員 (承認)

はい、ありがとうございます。いずれも報告ですので、議題というわけではありませんが、こちらでもお認めいただいたということで進めたいと思います。

(2) その他の事業について

ア 「市史編さん資料第58編 梶野家文書(3)」

イ 古文書調書委託

根岸委員長 それでは、(2)のその他の事業について、アとイ、一緒をお願いします。

高木主事 (学芸員)

はい。私から報告が2点ですね。アとイ、あわせて行います。

まず、「市史編さん資料第58編 梶野家文書(3)」、こちらはおとしから発行しています梶野新田梶野家文書です。この第3巻目となりまして、今年度発行いたします。梶野家は、江戸時代は梶野新田を開いた旧家でして、多くの古文書が残されておりますので、こちらは複数年に分けて発行する計画です。

今回はやはり200点前後の資料を納めることを予定していただき、現在、原本の構成を行っております。

続いて、イの古文書調査委託。こちらにも、実は、並行してこの梶野家文書を現在古文書の筆写の委託を行っておりますので、今年度も大分残されている部分の一部の筆写を予定しているところです。こちらは、根岸先生にご協力いただいているところもありますし、委託以外では、市民グループの古文書の会の方々にも、ボランティアという形で継続して報告に当たっていただいております。その辺の調査の成果です。こういう本にまとめて、随時発行していく考えでございます。

以上です。

根岸委員長

ありがとうございます。

梶野家文書、昨年、(2)が発行されまして、これも古い市史が始まって以来、基本的に毎年のように新しい資料を公開するというようなスタンスで、古文書の一部を報告し続けているという事業ですので、これも続けていければいいと思っておりますし、私もお手伝いするつもりであります。

これについては、よろしいでしょうか。

委員 (承認)

根岸委員長

はい、ありがとうございます。

2 議題

(1) 平成31年度小金井市史刊行記念講演会

根岸委員長

それでは次に、2の議題に入ります。

(1)平成31年度小金井市史刊行記念講演会とありまして、来年度の話で、随分1年以上も後の話になりますが、来年度の予算の関係もあることですが、これについては、高木さん、お願いします。

高木主事 (学芸員)

議題の1ですが、まだ企画段階ではありますが、来年度に小金井市史

の全ての刊行を記念して、記念講演会を考えております。この市史の編さん委員会の中でも、委員の皆様から、刊行の暁には、何かしら市民の方に情報発信をなさいのご意見をいただいておりますので、やはりそれは小金井市史を広く市民の方に読んでいただくように、こういうイベントは必要かと思っております。

読んでいただけるようにというのもありますし、今後、小金井市史の本がいろいろな形でご活用いただけるようなそういう場は必要であると思ひまして、講演会を、来年の秋頃に開催したい考えです。

ぜひ、ご了承いただけるようでしたら、講演者という形で、各時代のお話をいただくために、部会長の4名にご講演をお願いいたしまして、その最後には、トークセッションの形式を盛り込みたいと思っております。ぜひご協議いただきまして、ぜひご協力をということで、議題とさせていただきます。

関生涯学習課長
根岸委員長
関生涯学習課長

補足させてください。

お願いします。

今、高木から申し上げたとおり、この場で、ある意味ぶしつけな提案をさせていただいてございますが、市史は刊行で終わりというわけではなくて、これは議題の2のところにもつながるのですが、多くの方に読んでいただきたいと思っております。小金井の市史、文化を発信していかなければいけないというところで企画させていただきました。その趣旨を、ぜひとも鑑みていただきまして、今回議題の1で挙げさせていただきましたので、ご意見等いただければと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

根岸委員長

ありがとうございます。

今、事務局から提案がありました。小金井市の市史をさらに市民の方が知り、活用していただくために、記念事業として講演会を開きたいという話をいただきました。私からは、長時間にわたると市民の方がお帰りになってしまうだろうから、午後半日程度の想定で、1人が30分か40分ポイントを話して、その後できれば編集委員だけではなく、ほかの関係者なども入ったような形でシンポジウムか座談会を開き、それを会場の人たちからも質問いただいて、壇上だけではなく、お互いに来た方と話し合い協力できるような形にして、今後につなげていくような会はどうだろうかと思ひ提案させていただきました。具体的な方法は、まだ決まっていますが、そのような形式だったら実現可能かと思ひ次第です。

いかがでしょうか。ご意見、ご質問などお願いします。

中嶋委員

トークセッションというのは、どういう形を想定されているのかと。4人の講演者だけされるのか。それとも、関係者からも話をもらうのかということですが。

根岸委員長

私の話で構わないですか。私としては、なるべく多くの人たちと話せるような形がよろしいかと思ひしております。時間の問題や制約もある中、うまく盛り上がるかどうかわかりませんが、我々がお互いに話し

ているだけだと、聞いてくださる側もつまらないのではないかと考えております。

中 嶋 委 員

わかりました。

大 熊 委 員

先ほどもお話させていただいたのですが、市史は過去を知るだけではなくて、小金井の未来を予想させる、予感させるものだと思います。だから、編集委員の方には、30分ぐらいずつ要点を話していただいて、そうすると、その4人の話を連続すれば、これまでの小金井のベクトルが明らかになってきた段階で、それらを踏まえて、これから小金井をどうしたらいいのか、どう考えたらいいのかをざっくばらんに話すというのはどうでしょうかね。そんなことを考えたら、おもしろいものになるのではと思います。もしもよかったら、シンポジウムの司会、引き受けさせてください。その辺は、私得意なのですが。

根 岸 委 員 長

心強いお話もいただきました。

大 熊 委 員

もちろん、私ではなくてもいいのですが。

根 岸 委 員 長

いえいえ、中嶋さんが一番大変になるかもしれないですけども。

大 熊 委 員

あともう一つは、こういう絵図とか、それから先ほどの詳細な土器の写真のようなものを参考に示しながらだと分かりやすいと思います。そうでないと、興味が湧くまでに若干時間がかかるものだと思います。ぜひとも未来を語る市史編さん事業の記念講演会になったらいいかと思います。

根 岸 委 員 長

30分で話せる内容というのと、絵図からわかることですね。絵図から武蔵野の原野がだんだんと畑になり、さらに都市化していく中で、今の小金井ができていく、そうした景観の変化みたいなものが話せるのではないかと思います。そんなことを考えていました。

牛 米 委 員

例えば、近代部会の牛米さんでしたら、写真を並べてでしょうか。

そうですね。私の部会について、今のような話をするのであれば、近代で大事なことのひとつと考えていたのが、小金井にとっての都市化は、少し郊外宅地化という形で一、二割ぐらい山林がなくなって、少しずつ家が建ってくるようなイメージです。そういうものにどう小金井の行政が対応していくかという、そんな話で続けられるかと思います。だから、もしそのときに、その当時の風景がわかるような昔の写真があれば、そのようなものを使いながら、皆さんに聞いていただく。できるとしたらそのような形かなと、今考えました。

中 嶋 委 員

現代部会です。先ほどご指摘がありました。市史が、子どもにとってはちょっとわかりにくいのは事実だと思います。事実関係を確認するので精一杯で、わかりやすいとは言えないと思います。もうちょっとわかりやすくしたいという思いもあって、例えば小学生でもわかるような話題を取り上げるべきかとも考えていました。

例えば野川の環境保護についてとりあげて、関連で、くじら山の下原っぱとわんぱく夏祭りにも触れる。今も実施されていますので、くじら山は、南小学校が建設されたときに、土砂をあそこに持っていつてできた山であると。その上で、誰がくじら山と呼んだかというのと、

根岸委員長
大熊委員
根岸委員長
林委員

南小学校の子供たちですね、実は。そういったことはわかるので、そういうことも含めて、お子さんでもわかるような話題も扱って、お子さんが来るかどうかわかりませんが、本題の野川の環境保護に触れる。

これについては、例えばジブリの「借りぐらしのアリエッティ」というアニメがありますが、あれで使われているのは、明らかに野川とはけなんですよ。絵図とか写真とか、できれば「借りぐらしのアリエッティ」の絵図面も取り入れられたら、わかりやすいかと思います。

何か話ができてきましたね。

おもしろそうですね。

お願いします。

私が、識者の話を聞くのが好きなものですから、いろいろな講演会に出席するのですが、おおむね聴講する側の方たちの集中力が持続できるのがせいぜい2時間なんですよ。ですから、あれこれいろいろメニューをそろえてやるのは、かえってあまり効果がない。効果がないということはないでしょうが、市史に関心がある方の集まりであれば別かかもしれませんけれども、一般的には人間の集中力は、1時間半から2時間ぐらいだと思います。私の経験では。

ですから、今おっしゃられたように、映像を取り入れることも必要でしょうし、そういう講演会やなんかでも、一応趣意書のようなものを、誰もが見て、これはそういう意味でできているのかというようなことがわかるようなものを用意するとか、そのような工夫をしながら、まず興味を持ってもらうということに力を入れてはどうかと思います。

私、実は子どもが1人、娘がおります。もう結婚して嫁に行っちゃっています。今私自身が市史編さんの関係で取りそろえている資料が、この間全部整理して積み上げてみたら2メートル以上ありました。もし私が死んでしまった後は、娘に言わせると、全部専門家の人に処分してもらおうから二、三百万残しておいてください。こんなこと言われているのですね。

それでは資料を集めた意味がありませんので、私が今かかわっている神社、地元の神社で私が相談役をやっている八重垣稲荷神社という神社があります。そこに土蔵がありまして、中に様々なものが収蔵されているのです。それで、私が宮司に、私が持っている資料をここで受け入れてもらえないか相談したところ、いいですよと言われてまして、それで11月になって陽気がよくなって晴れの日が続くようになったら、持っていく約束をしました。そんなふうを持っている資料を生かすことを考えていかないと、ごみになって捨てられてしまうのでは何にもならないと思うものですから。

実は60年前に、小金井町を市とする申請書というのを、当時、私は小金井町の職員で担当の係だったものですから、まとめました。当時はガリ版刷りでしたけれども、1冊の本にして、何部か作成して、東京都に申請したのです。そのときの申請書は、多分保存してあるの

だろうと思うのです。市制施行60周年といいましても、そういうものがあるとは、また、それに関わった人が生きていることを知っている人は誰もいないわけですよ。

根岸委員長
林 委員

展示するに値する資料ですね。

ちょっと寂しいなという思いがいたしました。60周年後の現代と、当時申請した当時の小金井と時流がどんなに変化しているのか、比較したものをつくってみたいとも思っています。

皆さんが興味を持てるようなものがないと、講演会を開いて、あれもこれもやっていっても、あまり効果がないのではないかと思います。その辺も考えられてされたほうがいいのではと思います。

大熊委員

そういう話だったら多くの方が興味を持っていただけるのではないかと思います。

根岸委員長

今の話を踏まえて、もう少し具体化して、さらに市民にアピールしていく形になればと思います。とりあえずこの講演会を、まだ企画の段階ではありますが、開くことにご賛同いただけますでしょうか。

委 員

ありがとうございます。

(2) 市史編さん事業の継続について

根岸委員長

それも、関係あるかと思いますが、(2)の市史編さん事業の継続についてということで、これは課長、お願いします。

関生涯学習課長

それでは、議題(2)の市史編さん事業の継続についてということでございます。

まず、市史編さん事業の継続について、これまでの経過を踏まえて、ご説明いたします。小金井市は、市制施行10周年記念事業として、昭和40年代に小金井市誌を刊行いたしました。その後も市史編さん事業を継続し、現在に至るまで、数多くの市史関連も刊行し、さらに多くの資料を収集、調査してまいりました。

小金井市の都市化が進む時期の中で実施された、市史編さん事業にもたらされた成果は、とても大きなものでございます。特に市民協力員や調査員の方々のご協力によって、これまでに収集し、調査されてきた功績は、市の大きな財産と考えるものでございます。

本事業は、先ほど、冒頭私申し上げたとおり、市制施行60周年の本年度に、通史編の刊行をもって、1つの大きな役割を果たすこととなります。ここで区切りかなと思ってございます。

収集、調査された膨大な資料群は、市の歴史を考える上では、今後のまちの将来を見据えた中で大切な役目があると考えるところでございます。そのため、引き続き、資料の保存や調査のみならず、文化財との連携の中で、先ほど皆さんにご議論いただきました記念講演会のような、普及啓発やより一層の活用ができる体制を整えていきたいと存じます。

本日は議題(2)という形とさせていただきます。何か具体的な提案というわけではないのですが、ここで市史編さんと大きな事業を節目を迎

えるに当たって、これで終わりというわけではなく、先ほど教育長からもお話しいただいた、今後の活用ということが大切なことだと思っております。ただ昔を振り返るということではなくて、今後の新しい小金井市を模索していく上でも、今大切な資料がたくさんあって、それをどう活用していくかということで、我々としては、それは大切な責務だと思っておりますので、今回議題という形ではさせていただきましたけれども、その市史編さん事業を踏まえた今後のあり方について、皆様からのご意見等をいただければと思っております。議題(2)とさせていただきました。よろしくお願いたします。

根岸委員長

私は、今後を見据えた事業にしていくという意味で、ここで終わらせないことが大切かと思っております。前の市史がもう40年前ですから、次の市史が40年後にできるかどうかは別としまして、こうした市史で培ったものを発信していく意味での事業が必要だろうと思っております。

実は私は、現在の仕事に就く前に、埼玉県史編さん室という、埼玉県の歴史を編さんする部署に勤めておりました。それは、昭和50年代に始まった事業なのですが、それ以前の大正末から昭和の初めに『埼玉縣史』という、当時としては立派な歴史書ができていました。ところが、『埼玉縣史』が、昭和の初めにできて以来、編さん事業は全く途絶えてしまい、『埼玉縣史』で収集し使用した資料も、その後不明になったものが多くあります。そのために、私が関わった『新編埼玉県史』は、なにもかも最初から編纂事業を出発させなければならなかったのです。

小金井市では、前の市誌が終わってから以降も、市史編さん資料等を次々と公開し、活字にしてきました。そのおかげで随分スムーズに編さんもできたということがあると思っております。

私の思いを先に述べてしまいましたが、編さん事業を継続して、今後を見据えるだけではなくて、新発見の資料や未公開の資料を市民に公開しながら、市の文化や歴史をこれからも発信していくような事業ができればと思っておりました。ですから、編さんの継続の話聞いたときに、ぜひやってくださいと申し上げました。委員の方々のご意見、ご質問をお願いできればと思っておりますが、いかがでしょうか。

林 委 員

委員長が、かつて、ご自分が携わったお仕事の話がされたので、私も申し上げますと、私も4期16年市議会議員をやっておりました。そのときに、1年に二度、市政レポートというのを市民に配っていました。経費にも負担能力の限界がありますし、16,000部作成しました。初めのうちは地域的に限定して配って歩いたのですが、1期4年の間に、小金井市に転入してきたアパート住まいの方6割の方が出ていってしまうのです。4年間で。それだけ転出転入が激しかった。市民課の協力を得て調べたらそういう結果がありまして、小金井市に定着しないで、結局一時的な仮の住まいになってしまうと、やはり市に対する愛着心は育たない。それ以来、アパートには配らないことにしたのです。4割残った方たちを捕まえるために、結局戸建ての住宅に住んでいる市民にだけ配るという方法をとりました。

つまり、小金井市に定着する定着率は、市民の方の市政に対する関心の持ち方の傾向を知る上で大変参考になったのですが、それは、市の歴史に対する関心の持ち方の傾向を知る上でも参考になると考えています。

小学校高学年か、中学生対象の副読本のような形で、小金井市の歴史を学ぶ教育ができないものでしょうか。幼いときから、自分の住んでいるところの歴史に関心を持たせるような働きかけをしていけば、転居の多い方でも、その土地に関心を持ってくれるようになるのではと思うのです。

今まで、どちらかというソフト面について検討してきましたが、今度は少しハード面についても、市史編さん委員会として考えていく必要を感じていました。市史の刊行が一段落したからと、それで終わったということにはならないのではと思っています。これは私の意見です。

根岸委員長
大熊委員

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。お願いします。市史ができ上がって、それを本棚に置いて終わりにするのではなくて、市史編さん事業をできれば継続して、市民の皆様に理解してもらおうということは、私も必要だと思えます。

子ども達向けの副読本は、実は小金井には小学校の3年、4年が使う社会科副読本があります。それは、小金井市に赴任してきた先生方に作成してもらっていますが、小金井の歴史については、それほど多く書かれていません。私が4月に着任した際には、もう既に原稿ができ上がっていました。

2年後また刊行予定ですので、来年度から社会科副読本の編集が始まります。その中で、小金井の歴史について掲載する部分を増やすなどの提案をする余地はまだ有るかと思えますので、皆さんの頭の片隅に入れておいていただきたいと思います。

どうしたら小金井の歴史を理解してもらえるかですが、さきほどのビジュアルもそうですし、せっかく書いていただいた原稿を、本物のアナウンサーに読んでいただいて、それに映像をつけて、最後のところでどうしてこんなことになったのかという説明をしてもらおうとか。

市民に広めるための手段も、先ほどのシンポジウムとは別に、各地の公民館で、30人程度の小さな会でもいいと思うのですが、市史の説明会みたいなものが、少しずつできたらどうかとも思えます。

根岸委員長
井上委員

ありがとうございます。最初におっしゃっていた市史編さん事業。今までのような形で資料集など刊行していきながらというのは、ぜひしていただきたいと思います。市の予算もそんなに潤沢なものではないのはどこでもそうですが、その中で、ぜひ継続して、資料等がどこかに拡散しないようにというのと、発掘しながらさらに公開していくことをしていただきたいと思います。

また、子どもが小学校の低学年のときに、小金井のことを知ろうと

いった課題で、母親として子どもと一緒に市内を歩き回って、石碑等を調べたことがあります。そのときの資料はどこで調べたのだろうと今考えていました。何か先生が作成された簡単な地図を見ながら歩いていったような気がします。小学生対象の副読本だけでなく、先生方対象の資料を作成するとか、工夫していただく余地はあるかと思いました。

大熊委員

もう一つは、この地域は古代の人たちも選んだ場所なんですよ。つまり、古代の人もここに住みたいと思った場所ですよ。

どうして古代の人もここに住みたかったかという、いろいろな理由が見つかるわけです。水が豊富であったり。そういう古代の人も選んだこの小金井の魅力を、もっと子ども達にも理解してもらえんといかと思うのですが、どうでしょうか。

日高委員

そうですね。遺跡としてはたくさん小金井市にはありますし、今日配っていただいた秋のイベントに「史跡めぐり」として、「野川流域の遺跡を訪ねて」がありますが、まさにそういう遺跡が豊富な場所が小金井市でもあります。小金井市の文化財センターへ行くと、たくさん土器が並んでいたりするわけです。ただ、あそこをどれだけ子ども達も利用しているということも考えなければいけないと思うのです。それはやはりアピールです。今までの話と同じように。

そういう中で、それぞれの校区の子ども達というのが、自分達の住んでいるところでそういう遺跡があるということをも分らずに縄文時代のことを教えられて、教科書で見て、教科書の世界としてしかなか体験できていないというのが、それは縄文に限りませんが、そういうところで、考古資料というのは、そういう地域の中で生きた資料に、材料になるものですので、それを今後の市史編さんの事業の継続というところも含めて、ずっと子ども達は毎年毎年新しく入ってくるわけですので、そういう子供たちに伝えていくという努力は継続していかなければいけないと思います。そういうところで市史編さんの成果というのが活用されていくべきだと思いますので、やれることは、私どもも協力してというふうには思いますので、ぜひ、進めたいと思います。

根岸委員長

ありがとうございます。

ほかにご意見いかがでしょうか。

牛米委員

私1つよろしいですか。市史編さんの継続については、私も少し前にお話をさせていただいたことがあるのですが、実は今回小金井の近代編ということでお話をいただいたときに、期間が短かったにもかかわらず、お引き受けた1つの理由は、小金井市では、前回の市誌刊行以降も、編さん資料集の発行という形で、市史編さんを継続してきました。その成果を活用すれば、この期間内でも可能と判断しまして、お引き受けした経過があります。

私も昔、多摩の自治体史の事務局で編さんにかかわった経験があります。小金井市史は、市史刊行後も、その後組織がずっと残っていました。ほかの自治体では、刊行と同時に事務局の業務も終わってしま

ういます。そうすると、また立ち上げるときに、何十年後になかなか難しいところがありまして、そういう意味では小金井市を大変うらやましいと思っておりました。

ですから、ぜひそういう形で編さん事業の継続をしていただけると大変ありがたいと思っております。

あともう一つは、今できたものの活用というお話をしていただいたのですが、今回新しく資料としているものは、今まで未公開だった資料を発掘していただいています。市役所の資料でも、今まで未公開だった明治、大正、昭和期の資料が出てきております。そういう現物の資料を、全部は今回の自治体史で使いませんので、きちんと保管する体制を考えていただいて、今結構小学生とか中学生の活用を考えていましたが、それも含めてですが、今度は地域に住んでいる、いわゆる大人の方々にこの市史を読んでいただいて、更に研究を深めていくときに、資料の公開の要望があれば、見られる形に整理しておいていただけると、もっと活用が広がるのかということを実は考えております。

ですから、そういう意味で、資料そのものの保存もあわせてご検討いただけると、大変ありがたいと考えています。

根岸委員長

ありがとうございます。

活用の面、あるいは今後の課題など非常に積極的かつ前向きな意見をいただいたかと思えます。ぜひ継続していきたいということですが、ほかに例えば委員会をどうするかとか、あるいは長年市史編纂を担当してくださっている非常勤職員の方が文化財センターにおられて、編集作業に協力いただいたおかげで、今何とか事業がなりたっています。また市民協力員の方がおられて、こつこつとした資料を丹念につくっていただいていることにも支えられています。このような、多くの方の協力があってできていますが、それらの方々にもぜひ継続していただき、地道な編さんをお願いできればと思っております。この件についても私は要望したいと思えます。今後の計画を事務局で具体化していただいた上で一度編さん委員会に、もう一度上程していただくことにして議論を閉じたいと思えます。何かほかにご意見があればお願いします。少なくとも、ぜひ編さん事業を継続すべきだという編さん委員会の方針が確認されたと思えます。

あとっておきたいのは、資料収集についてです。今、林先生から、ご自身のお宅にご自身でつくられた資料がある。実はそれは、あと30年、40年後の市の歴史にとってすごく重要な資料だと思います。ほかにも同様な資料をお持ちの方が多分おられるかと思えますし、それを引き受けて、きちんと収蔵できる体制。今アーカイブという問題で、さまざま議論されていますし、公文書問題としても議論になっていますが、史料収集、保管についても市史の編さんで継続ができるような具体的な案をつくっていただき、さらにこの場で議論する形でのよろしいでしょうか。少なくとも、何度かこの議論をしながら、ぜひ未来にこれを続けて、つなげていきたいという思いは、委員の方、皆さ

んが持つておられることは確認できたと思いますので、よろしく願いします。

関生涯学習課長 事務局です。さまざま大変貴重なご意見いただき、どうもありがとうございました。

活用についてということで、お話し申し上げましたけれども、やはり保管という体制というの、これもほんとうに課題だと思っていて、集めたもの、アーカイブという話もございします。保存の保管の活用の仕方もあるかと思っておりますので、今後どういった形で続けていくかということについては、今委員長からもお話がありましたとおりに、お示しするべきだと思っております。事務局としても、いただいた貴重な意見を参考に案を練ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

根岸委員長 ありがとうございます。

今後継続していく際にも、建設的なご意見をさらにお願ひしたいと思っております。

3 その他

東京文化財ウィークについて

根岸委員長 それでは、3のその他に移りたいと思っております。

高木主事(学芸員) もう既にご紹介もしておりますので、簡単に。私のほうからは、東京文化財ウィークという冊子が2つお配りしております、その中で企画事業で小金井市も参加しております。3つ、史跡めぐり、文化財講演会、記念展示ということで、3つの柱がありまして、その中でまだ募集をしているのが、史跡めぐりと文化財講演会。こちらがまだ少し枠がありますので、もし、皆さんでご興味がありましたら、ご連絡いただければ、また申し込んでいただければと思っております。

最後の3の記念展示は、まさに市史編さんの成果も少しあわせて展示をして、1日から予定をしておりますので、ぜひ近くにお立ち寄りの際は、ごらんになってください。

根岸委員長 ほかに先生方から何かご提案はございますか。

4 次回の会議日程

根岸委員長 もしなければ、次回の会議予定は、前回に2月4日の午後2時からということになっておりますが、基本的にはこれでよろしいですか。

井上委員 私、入試が入ってしまって、欠席させていただくしかないかと思っております。

根岸委員長 そうですか。申しわけありません。

井上委員 申しわけありません。

根岸委員長 ほかの先生方、いかがでしょうか。2月の4日でよろしいですか。

それでは、井上先生、申しわけありませんが、その形でさせていただきます。

これで今回の編さん委員会は終わりにいたします。長い間、建設的

な意見をたくさんいただきましたので、今後続けていければいいと思います。どうもありがとうございました。